

5年生「スーパーグローバル」IDEC 連携プログラム

第4回実施報告

日時：2017年11月11日（土）13:00-16:00

場所：広島大学附属福山中・高等学校内情報教育棟 マルチメディアホール，図書閲覧室

参加者：生徒22名，留学生16名，学生1名，大学教員1名，本校教員4名

実施内容

第4回のIDEC連携プログラムは、2部構成で実施しました。第1部では、前回に続いて、これまで発表していただいた留学生の研究課題に対し、本校の生徒が多文化比較や国際理解の観点から、議論をしていきたい内容について、その課題設定を発表しました。今回は以下のようなタイトルで、7つの班によって発表が行われました。

- How to Make the Society Friendlier to Sexual Minorities.
- New Education in Poor Countries.
- Change our awareness by education.
- Conflict in Reduction of carbon dioxide emission
- Agriculture of Liberia.
- Spread Peace Education.
- Review Laos Insurance

全班の発表終了後、第2部へと移りました。第2部では、発表に関する議論を行いました。留学生2、3名が、20分交代で、研究の関心が近い班と議論するという構成でした。議論の中では、発表内容に関する質疑のみならず、課題設定や研究方法の提案などもしていただきました。発表内容が発展途上国に関する事なので、日本語や英語での文献収集が困難な場合も多々あることから、当該国の方の経験や意見は、生徒の考えをさらに広げ、深めるものでした。

次回は、12月です。第3回、第4回でいただいた意見を踏まえ、生徒たちは最終発表に臨みます。

【参加者の声】

○今回、留学生のコメントとアドバイスを聞いて2つの課題が見つかりました。1つ目は、ラオスの経済状況を踏まえて、自分たちの提案する保険制度を考え、どの点が良いのかを説明できるようにすること。2つ目は、日本だけでなくほかの国（ラオスと経済状況がよく似ている国）の保険制度も踏まえることです。これら2つの課題を解決し、12月のIDEC連携プログラムをより良いものにしようと思いました。

○まず、英語でプレゼンをするにあたり、非常に抽象度の高いトピックであったため難しいところもありましたが、課題に対して現状を分析し自分たちの考えた解決策を提案するという課題解決の練習になりました。そしてそれらを、英語が第一言語であるとも限らない人々にわかりやすく伝えるために



工夫しながら原稿やスライドなどを作成する中で、プレゼンのスキルを上げることもできたと思います。ですが、プレゼンが終わったのち、留学生と話をしてみると、自分たちが伝えなかったことが完全に伝わっていたわけではなかったことを知り、今後はどのようにすればよりよい伝え方ができるのか分析していこうと感じました。また、留学生と議論をする中で、気に留めていなかったような点から新たな問題を発見することができ、課題研究をブラッシュアップできたことへの喜びとともに、世界には多様な意見を持った人がいるということを再度、感じることができました。



○「平和」が政治的な言葉だと言われたのが、最も印象に残っています。そんな視点で平和を考えたことがありませんでした。今まで広島県民として平和教育を受けてきたことに誇りを持ちながら、一方で課題点を探り、平和に対する認識の欠点に気づけた気がしていたけど、それでもまだまだ自分の思考は浅く甘く、グローバルな視点に立つことができていなかったのだと、IDECの学生さん方からアドバイスをいただく中で気付かされました。また、研究活動は **adventure** であり、疑問を持ち続けることが大事だということなども教わり、新しい視点を持ちつつも、私たち自身の意見を、説得力をもって伝えていけるよう努力したいと思いました。



○プレゼンの後のディスカッションでは私たちが前提だと思って話している部分や、意識せずに何気なく使った単語について質問が多かった。私たちの当たり前と留学生との間に溝があり、単語ひとつでも、捉え方（伝わり方）が様々だということを経験させられた。また、大学の先生がおっしゃっていた「何のために、誰のために、どの立場からプレゼンしているのかはっきりさせる」という事は、これまであまり意識していなかったが、班の仲間と考えることでプレゼンの方向性が明確になったように感じた。



○英語の授業でもプレゼンやディスカッションがありますが、同級生からは絶対に質問されないようなことまで質問され、そういう見方もあるということを実感すると同時に、たくさんの人に向けて発表するときには、「そういうこともある」で済まされることはないし、できるだけ多くの人の理解を得る為には自分と違う考え方の人のことも考えなければいけないのだと改めて感じました。



○ディスカッションでは、自分たちから意見を言うことができず、留学生の方の意見を聞くことしかできななかった。自分たちが何を聞きたいのか、どういう立場で話し合っていくのかを明確にしておかないといけないと感じた。また、留学生の方は、自分たちが考えていたのとは違う観点で問題について解決策を提案されており、こういう考え方もあるのかと参考になった。どれかが正解ということはないと思うが、いろいろな側面から問題をとらえることが大切なのだと知った。